

# 令和4年度 那珂市教育支援センター Seminar

## 特別支援教育コーディネーター養成ゼミ 研修の様子

第1日 7月28日(金)

今回のテーマは、

「特別支援の「支援」とは～特別支援教育コーディネーターの役割～」でした。

まずは、特別支援教育を支える各種法令等について理解するとともに、校長の役割などにも触れました。その後、特別支援教育コーディネーターに求められる資質、実際に取り組むべき仕事の内容等を考えていきました。

○学校内における特別支援教育の推進役であり、学校内の関係者と連絡調整を進めます。

○ケース会議の開催（これがとても重要です。）→模擬ケース会議に取り組みました。

### ※ケース会議→事例検討会、ケースカンファレンス

解決すべき問題や課題のある事例（事象）を個別に深く検討することによって、その状況の理解を深める対応策を考えていきます。

○個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成

○外部関係機関との連絡調整 例) 那珂市教育支援センター

担任とのかかわりの中で配慮したいこと、保護者面談はどうしたらよいのか等について学び、研修を深めていきました。



第2日 8月 1日(月)

今回のテーマは、

「WISC検査の結果から見える支援を考える」でした。

研修の内容

1) WISC-IVとはどんな検査

2) WISC-IVの検査結果の見方とよくあるパターンについて

3) 各指標得点の強弱について

4つの指標得点→①援護理解指標 ②知覚推理指標 ③ワーキングメモリー指標

④処理速度指標

4) グループワーク→どんな支援ができるか、話し合っって支援策をまとめよう。

例) 言語理解指標が強い児童への支援、あるいは逆に弱い児童への支援は？

知覚推理指標が強い児童への支援、あるいは逆に弱い児童への支援は？ 等

### ○ケース1を考える

言語理解と知覚推理が、ワーキングメモリーと処理速度よりも強い児童への支援

## ○ケース2を考える

知覚推理とワーキングメモリーが、言語理解と処理速度よりも強い児童への支援  
本日の最後に、検査後に気をつけて欲しいことについて触れました。

- ・検査は頻繁に受けることはできない。
- ・検査を受けてIQが分かったからと言って、安心しない。
- ・検査結果を踏まえて、その子の特性に合った支援を考え進めていく。 等



第3日 8月 3日(水)

今回のテーマは、

「自立活動の実際と課題～日々の自立活動の充実に向けて～」でした。

本日の研修は、自立活動実践編として位置付けました。

まず、自立活動の役割を確かめました。

→・学習上、生活上の困難の改善や克服 ・知識、技能、態度、習慣を養う。

児童生徒の調和的発達に欠かせないものです。

自立活動の内容…6区分27項目

- ①健康の保持
- ②心理的な安定
- ③人間関係の形成
- ④環境の把握
- ⑤身体の動き
- ⑥コミュニケーション

具体的な事例から考えてみました。

【事例1】 些細なことでカッとしてトラブルを起こすAさん（小学校3年）

【事例2】 自己表現することが苦手で、欠席が増えてきているTさん

指導を考えるプロセス まずは、実態把握から…そして

指導すべき課題の整理→実態に即した「指導目標の設定」→目標達成のために、必要な「項目の設定」→選定した項目を関連づけた「具体的な指導内容の設定」

【事例1】に対して、あくまでも一つの例として本日の受講者で知恵を絞りました。

「怒らないようにする方法」を指導するのではなく、「怒りの感情を処理する方法」を子どもと一緒に考える。そして、怒りの感情を処理する方法を探します。「怒ってしまった時は、〇〇しよう」というような言葉だけの指導にならないように、ロールプレイによって具体的に指導します。

例) カードゲームでのロールプレイ

カードゲームを行う前に、「負けてしまって、怒りが抑えられなくなった時どうするか？」を子どもと事前に一緒に考える。子ども自身で考えることが難しい場合は、いくつかの選択肢を提示して選べるようにする。

